広報委員の活動を紹介します

議会だよりの視察に全国各地から来町！

今年2月の町村議会広報全国コンクールで優良賞を受賞してから、議会だよりへの視察が急増しました。6月末の徳島県勝浦町から始まり、8月末の山梨県町村議会広報研究協議会まで合わせて8ヵ所からの来町がありました。10月以降も3件の視察が予定されています。

視察に来られた委員からは熱心な質問が出されました。内容は、「編集や資料のまとめ方はどのようにしているか」「表紙のデザインに特徴があるが、どのようにして決めたのか」「各世帯への配布方法はどのようにしているか」などでした。

ここで感じたことは、「住民に広報紙を通じて議会の活動をどのように伝えるか」を真剣に考えているということでした。また、住民の意見を議会に反映させる努力も感じました。

新しい発見もたくさんありました。「玉村町よりもさらに早期発行している議会広報があったこと」「編集ソフトを使い自分たちですべて編集しているところ」「一般質問の追跡を毎回実施しているところ」「背面が糊づけされて見やすいところ」もあったことなどです。

視察対応をする中で、感じたことや教えられたことを、今後の議会だよりの作成に反映させていきたいと考えています。

6月29日	徳島県勝浦町議会
7月 3日	長崎県長与町議会
10日	福島県三春町議会
11日	愛知県大口町議会
13日	長野県下諏訪町議会
8月 3日	石川県津幡町議会
10日	岡山県美咲町議会
30日	山梨県町村議会広報研究協議会

下諏訪町

三春町

伝える広報から“伝わる広報”へ

全国町村議会 広報クリニック研修

平成30年7月12日(木)

「議会だよりの基本と編集」をテーマに広報クリニック研修（TKP麹町駅前会議室）に参加しました。

講師の先生からは「編集方針や編集マニュアルを作成し、議員が統一の認識のもと議会だよりを作成することが大切」との話がありました。また、伝える広報紙から、「わかりやすく、読みやすく、住民目線」の伝わる広報紙を目指すことの大切さを改めて感じました。

その後、8つの町村議会の広報クリニックを実施。各広報紙とも特徴があり、内容も充実し、素晴らしいと感じました。それぞれの紙面について、よい点・改善すべき点を先生が解説され、我々の広報紙にも当てはまることが多くありました。

この研修で学んだことを生かし、ステップアップした議会だよりをお届けできるよう頑張っていきます。

制作のポイントや事例を学ぶ

見る・聴く・学ぶ 研修会に参加しました

「地方財政制度の基本と自治体財政」について学ぶ

市町村議会議員研修

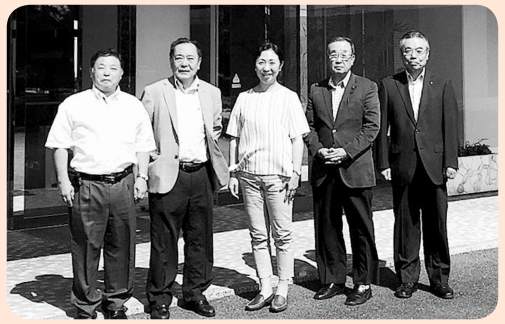
平成30年8月22日(水)～24日(金)
場所…全国市町村国際文化研修所

自治体の財政状況がよいか悪いかがなぜ問題なのか。そもそも財政状況が悪いとどうなるのか。8月の猛暑の中、財政制度の基本を学ぶため、議会運営委員会の5人は滋賀県へ向かった。3日間の研修のメイン講師は、関西学院大学大学院経済学研究科の小西砂千夫教授。

この研修には、全国から多くの議員が参加していたが、それぞれの自治体の抱える課題はさまざまで、その実態を知ることも学びであった。赤字があり、貯金が少なく借金が多い場合、自治体の財政状況が悪いとされる。それによって、新規投資が難しくサービス水準を下げなければならない恐れがあるが、例え赤字はなくても、貯金が少なく借金が多ければ将来的に財政は硬直化していく。

また、人口16万人の兵庫県川西市では、財政の立て直しのため人件費や公債費をどうコントロールしていったか。市の総合政策部の部長から具体的な取り組みの講演もあり、財政の奥深さを実感した。

玉村町は、災害が少なく、交通の利便性に富んだ住みやすい町であるが、固定費の割合が高く、財政は厳しくなってきている。議員も研修で学びながら、議会力をつけていく必要を感じた。



自治体財政の現状と課題を学ぶ

玉村町議会

被災者へ義援金を！

玉村町議会は、日本赤十字社群馬県支部を通して、広島県や岡山県など西日本に甚大な被害をもたらした平成30年7月豪雨の被災地に、義援金（5万円）を送りました。

日本赤十字社群馬県支部からは、災害発生時から現地に救護班・災害派遣医療チーム等を派遣し、被災者の救援を行ったとの報告を受けました。

被災地復興支援のために

議会の傍聴をしてみませんか？

玉村町議会では、3月・6月・9月・12月に定例会が開催されます。そのほかに、必要に応じて臨時会も開催されます。本会議・委員会は、どなたでも傍聴できます。詳しくは、議会事務局まで。

次回定例会は、12月4日（火）開会、12日（水）閉会の予定だよ。

こんな議案を審議しました
鋭く迫る！一般質問
追跡
委員会のうごき
その他